色々雑談部屋

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
色々雑談部屋

【Ｎコード】
Ｎ８８６２Ｙ

【作者名】
紀葉

【あらすじ】
紀葉とドンキーが色々と雑談します。
質問に答えたり、ゲストを招くこともあるかも？
リクエストも受付中！

初めに（前書き）

とりあえず説明をば。

初めに

紀葉「どうもこんにちは。『普通で普通じゃない日常』の主人公であり、同作品で作者の一番のお気に入りのキャラの八木紀葉です。」

ドンキー「ドンキーコングシリーズの主人公で、作者の嫁を超越した何かのドンキーコングです。」

紀葉「えーっとこれはですね、私達がいろいろお話したり質問に答えるという趣旨のものなんですけどね…。」

ドンキー「この企画長く続きそうにないな…。」

紀葉「そういうこと言うなよ…。」

ドンキー「で、今回は何するんだ？」

紀葉「ちょっと募集したいものを言うよ。」

・質問
作者についてでも、キャラについてでも構いません。

・意見
どんな意見でもおｋです。

・リクエスト
何か書いてほしいものがあれば。

紀葉「こんなもんか。」

ドンキー「需要あるのか？」

紀葉「言うな。とりあえず、何かあればこれの感想に送ってください。」

ドンキー「まぁ無くても何かしら書くから大丈夫だけどな。」

紀葉「では今回はこれで。さよーならー。」

初めに（後書き）

ご意見、待ってます！

第1回（前書き）

ドンキー「おーい紀葉、本番…あれ？どこ行った？」
紀葉「ばぁ！」
ドンキー「うわっ！ビビルワァ！」
紀葉「これがホントのびっくりドンキーｗｗｗ」

第1回

紀葉「どうも～。紀葉です～。」

ドンキー「ドンキーでーす。」

紀葉「さっそくだが質問に答えよう！」

ドンキー「来たのか！？」

紀葉「来たよ。」

ドンキー「マジで？」

紀葉「マジです。ではさっそく…カルピスフロートさんからドンキーに質問。」

ドンキー「俺？」

紀葉「作者とバナナならどっちが好き？とのことだ。」

ドンキー「バナナに決まってんだろＪＫ。」

紀葉「ですよねｗｗ」

作者涙目。

ドンキー「紀葉ならちょっと悩んだかも…。」

紀葉「へっ？」

ドンキー「でもバナナ。」

紀葉「やっぱりな…。まぁ次の質問行くぞ。」

ドンキー「まだあるのか…。」

紀葉「うん。阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「作者にか。」

紀葉「なんで『普通で普通じゃない日常』を書こうと思った？とのことだ。」

ドンキー「なんか理由あるのか…？」

紀葉「作者のコメント。『実は中１の頃から普通（ｒｙみたいな話を脳内で繰り広げていて、小説家になろうを見つけていろんな人の小説を読んで、せっかくだからこの物語を小説にしちゃうか！というノリで書き始めました。ちなみに、最初は紀葉、千樹、杉助、桜太郎、百合の五人で行こうとしてました。』…とのこと。」

ドンキー「中１なのに中２病か。」

紀葉「誰うまｗｗｗよし、次ー！」

ドンキー「おーう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「また作者か…。」

紀葉「リリカルなのはは知ってますか？知ってたらお気に入りのキャラは誰ですか？と…。」

ドンキー「あのアニメか…。」

紀葉「作者のコメント。『リリカルなのはは知ってますよ～。まぁニコニコから得た知識が六割ですけどねｗｗお気に入りのキャラはなのはです。ちなみに嫌いなのはもちろんクソ赤帽ですｗｗｗ』とのこと。」

ドンキー「クソ赤帽ってヴィータのことか。確かにあいつ逃走中とかで問題行動起こしまくりだもんな。」

紀葉「ホントだよね…。死ねばいいのに…。」

ドンキー「まだあるか？質問。」

紀葉「うん。しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者への質問多いな！」

紀葉「スマブラメンバーで一番好きなキャラ…はドンキーだと思うので、一番嫌いなキャラは？だって。」

ドンキー「俺のこと好きって言うわりには俺のことあんまり使ってないだろ作者。」

紀葉「作者曰わく、パワータイプや重量級のキャラは使いずらいんだって。」

ドンキー「練習しろよ！」

紀葉「まぁそれはおいといて。」

ドンキー「おいとくのかよ！？」

紀葉「作者のコメント。『ガノンドロフです。すんごい使いずらい。使いたくもない。見た目も好きになれない。リアルなおっさんは基本的に全員そうだけど。あと亜空のあれ見てもただの外道だし。悪いイメージばっかり。』…らしい。」

ドンキー「俺もガノンの野郎は嫌いだぜ。亜空の使者の件でロボットの仲間に亜空爆弾を無理やり起動させたり、ロボットを攻撃させたり、ロボットかわいそうってもんじゃなかったぜ…。」

紀葉「ドンキー…。」

ドンキー「事件の後ボコボコにしてやったけどな。」

紀葉「あ、やっぱり？」

ドンキー「そりゃそうだ。」

紀葉「ふーん…おっと、そろそろ時間だね。」

ドンキー「おぉ、今回はここまでか。」

紀葉「まだまだ質問受け付けてますよ！」

ドンキー「作者、俺、紀葉以外にでもおｋです。」

紀葉「それでは皆さん、ご機嫌よう！さよーならー！」

第1回（後書き）

予想以上にたくさん来て良かったです。

第2回（前書き）

紀葉「ちわーっ！三河屋でーす！」
ドンキー「あらサブちゃ～ん。」
紀葉「…普通逆だよなw」
ドンキー「てかなんだよこのコントw」

第2回

紀葉「えー、早くも二回目です！今回も三度の飯よりＮＬが好きな、私紀葉と！」

ドンキー「任天堂のゴリラ代表、ドンキーでお送りします。」

紀葉「ゴリラ代表ｗｗ確かにｗｗ」

ドンキー「任天堂のゴリラといえば俺だろ。」

紀葉「まぁそうだねｗｗではさっそく質問に移りたいと思います！」

ドンキー「ガンガンいくぜ！」

紀葉「阪神虎之介さんからドンキーに３つ質問。」

ドンキー「３つ！？」

紀葉「まず１つ目。バナナ以外で好きなものはある？」

ドンキー「バナナ以外か…。そうだな、みんなでレースしたり乱闘したりすることかな。」

紀葉「みんなと競い合うことが好きなんだね。」

ドンキー「おう。」

紀葉「じゃあ２つ目。今まで出たことがあるゲーム以外で出たいゲ

ームは？」

ドンキー「う～ん…。思いつかない…。」

紀葉「マリオの本編とかは？」

ドンキー「無理だしどっちかっていうと出たくない。自分の分だけでいっぱいいっぱいだからな…。」

紀葉「そうか…。ちなみに作者は今出てるゲームでも十分ドンキーを見れるからでてほしいゲームは特に無いらしいよ。」

ドンキー「まぁそうだろうな。」

紀葉「じゃあ３つ目。阪神と読売どっち好き？」

ドンキー「…阪神と読売ってなんだ？」

紀葉「…あぁ、そっちには阪神と読売無いんだね…。野球チームのことなんだけどさぁ…。」

ドンキー「野球チームか…。俺野球チームでキャプテンになったことあるぜ。」

紀葉「マリオ野球ですね、わかります。ちなみに作者はほとんど野球を見ないらしい。」

ドンキー「どうでもいいな。」

紀葉「そうだね。じゃあ次はＭＲ．ホースさんから作者に２つ質問。

」

ドンキー「やっぱり作者への質問多いな…。」

紀葉「1つ目。けいおん！のキャラで誰が好き？」

ドンキー「あー…あのほのぼのしてるやつか…。」

紀葉「作者は唯が好きらしい。表情が可愛いからって言ってた。」

ドンキー「表情か…。」

紀葉「表情です。じゃあ2つ目。魔法少女まどか☆マギカのキャラで誰が好き？」

ドンキー「もう何も怖くない！」

紀葉「おいやめろ。作者はなんとなくまどかが好きらしい。」

ドンキー「なんとなくかよ…。」

紀葉「そこまで詳しいわけじゃないらしいからな、作者も。はい次。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「りゅーとさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「俺らに質問しても全然いいのに…。」

紀葉「1つ目。スマブラで好きなトリオはありますか？」

ドンキー「トリオか…色々あるよな。」

紀葉「作者に聞いたら、マリオ、ドンキー、ヨッシーのトリオと、カービィ、メタナイト、デデデのトリオが好きらしい。」

ドンキー「なるほど。」

紀葉「あとトリオじゃないけど、ドンキー、ディディー、ファルコン、オリマーの4人が好きだとも言ってたな。」

ドンキー「やっぱ俺がらみ多いな…。」

紀葉「それからスマブラじゃないけど、ドンキー、ディディー、ランキーのトリオが超好きって…。」

ドンキー「なんで言うんだよ…。」

紀葉「言いたかったんだろうよ。よし2つ目。」

ドンキー「はぁ…。」

紀葉「トイレのドアを開けたら、作者が『和式トイレとドンキーは俺の嫁ー！』と言いながら襲いかかってきました。どうすればいいですか？」

ドンキー「なwんwじゃwそwりゃwww」

紀葉「作者のコメント。『殴ればいいと思うよ。あと言っときます

けどりゅーとさん、私洋式派です。それとドンキーは嫁じゃなくて嫁を超越した何かです。』…だって。」

ドンキー「まるで意味がわからんぞ！」

紀葉「そんなこんなでもう時間だ。」

ドンキー「最後意味不なまま終わった…。」

紀葉「ではまた次回。シーユーアゲイン！」

第2回（後書き）

やってやった…！俺はやってやったぞぉぉぉ！

第3回（前書き）

紀葉「質問見落とすとか作者最近だらしねぇな！」

ごめんなさい…。

第3回

紀葉「早くも三回目っす。」

ドンキー「感謝の極み。」

紀葉「今回もサクサク行きましょう！」

ドンキー「ほいさきた。」

紀葉「しらさんからドンキーに質問だ。」

ドンキー「ｋｔｋｒ！」

紀葉「ワリオが（しらさんの小説で）スマブラメンバーのことをしもべって言ってたけどそれでもガノンが一番嫌いなのは変わらない？」

ドンキー「ん～…そうだな、変わらない。」

紀葉「ほう、それは何故？」

ドンキー「だってしらさんのとこの話だろ？」

紀葉「あ、確かにwじゃあこっちで言ったとしたら？」

ドンキー「ワリオがそういうこと言うのは予想できるさ。だから別にそんな気にならねえよ。」

紀葉「え～…そうなの？」

ドンキー「てかワリオはさ、たまにニンニクを他の奴に分けようとするんだよ。多分厚意で。いらねえけど。ガノンは全くそういうこともしないからな…。」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ次、しらさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「お、二人にか。」

紀葉「逃走中にでて逃走成功したら何に使う？ただし、ドンキーはバナナ以外で。」

ドンキー「バナナ以外！？」

紀葉「私は貯金かな。やっぱり少しでも生活を楽にしたいし…。」

ドンキー「うーん…あ、わかった！携帯買う！」

紀葉「…なんで？」

ドンキー「マリオ達と連絡とるのが楽になるから。」

紀葉「なるほど…でも携帯使いこなせるのか？」

ドンキー「大丈夫だ、問題ない。ディディーに手伝ってもらうから。」

紀葉「あぁ、そっすか…。じゃあ次いくよ。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「やっぱりか。」

紀葉「ニコ厨になったきっかけは？」

ドンキー「…きっかけとかあるのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『ネサフしてたらニコ動見つけて、見始めて、そのうちニコ厨になりますたｗｗｗ』らしい。」

ドンキー「…ネサフ？」

紀葉「ネットサーフィンの略。ようするにインターネット上のサイトを見て回るんだよ。」

ドンキー「へ～…。」

紀葉「じゃあ次はｉｚｕｍｉさんから作者に質問。」

ドンキー「作者ってこう見ると謎だらけに見える。」

紀葉「ニコニコで一番好きなネタは？」

ドンキー「え、好きなネタ？」

紀葉「作者のコメント。『一番好きとか決められないですよｗｗｗ

でも最近よく使うのはシャダイネタかな。大丈夫だ、問題ない。』らしい。」

ドンキー「一番いい補足を頼む。」

紀葉「ようするに作者はニコニコ全体が好きなんだよ。」

ドンキー「そうかぁ…。ん？そろそろ時間じゃね？」

紀葉「おぉ、ホントだ。じゃあみなさん、また会いまっしょい。アディオス！」

第3回（後書き）

今後は見落とさないようにする！

第４回（前書き）

紀葉「パイの実超うめぇｗｗｗ」
ドンキー「バナナ超うめぇｗｗｗ」

第４回

紀葉「質問たくさん来るねー。」

ドンキー「そうだなー。」

紀葉「まぁ答えよう。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「またかよちくしょう…。くやしいのうｗｗくやしいのうｗｗ」

紀葉「プリキュアで一番好きなキャラと一番嫌いなキャラは？」

ドンキー「両方聞くのか。」

紀葉「作者のコメント。『プリキュア知ってるんですけど、知識としてはまどマギより薄いです。なので特に好きなキャラはいないんですけど、竜斗さんの影響でくるみは嫌いです。』だとさ。」

ドンキー「あ～…プリキュアは俺もよくわからん。」

紀葉「私も…。じゃあ次行こうか。」

ドンキー「どんな質問くるんだ…。」

紀葉「りゅーとさんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「おぉ！」

紀葉「1つ目。スマブラに参戦になったとき思ったことは？」

※俺設定入ります。ご注意ください。

ドンキー「うーん…。最初は無理やり来させられたんだよな…。だからすぐに帰してほしかったんだよ。」

紀葉「そうなの！？…えと…それで…？」

ドンキー「でもDX以降はいろんな奴と戦えることにワクワクしたぜ。…あ～早くスマブラ新作出ないかな～？」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ2つ目行くよ。」

ドンキー「ドンとこい！」

紀葉「学校の帰り道でネギを振り回すゴルゴに遭遇しました。助けてください。」

ドンキー「！？」

紀葉「どうした？早く答えろよ。」

ドンキー「えーと…じゃあ後でそいつしばいておくので…。」

紀葉「うむ。じゃあ3つ目な。」

ドンキー「嫌な予感しかしない…。」

紀葉「パピーコパピーコパピコパピコパピパピパピーコパピコパピコパピコー！パピコー！！」

ドンキー「もうどうにでもな～れ。」

紀葉「さぁ答えろ！」

ドンキー「えーと…パピコパピーコパピパピパピコパピーコパピコ！パピーコ！！」

紀葉「お前何言ってんの？」

ドンキー「…こんなの絶対おかしいよ…。」

紀葉「まぁ次行こう。次は普通だから。」

ドンキー「ホントか？」

紀葉「ｉｚｕｍｉさんから私とドンキーに２つ質問。」

ドンキー「はぁ。」

紀葉「一番会いたいアニメかゲーム（任天堂以外）のキャラはいますか？」

ドンキー「任天堂以外だったら、バンジョーに会ってみたいな。ディディーの友達らしいし。」

※ディディーコングレーシングの話です。

紀葉「うーん…遊戯王の王様（闇遊戯）かな？髪型どうなってんのか見たい。」

ドンキー「理由それかよｗｗ」

紀葉「いいじゃん、すごいじゃん、さかいじゃん～。」

ドンキー「古くね？」

紀葉「気にするな。２つ目。一番行きたいアニメの世界はある？」

ドンキー「えー…アニメってよくわかんねーよ…。」

紀葉「そっか。私は遊戯王の世界だな。髪型変な人がどんくらいいるのか見たい。」

ドンキー「だから理由ｗｗｗ」

紀葉「うぇｗｗあ、時間だ。」

ドンキー「あー終わった…疲れた…。」

紀葉「じゃあ今回はここまで。チャオチャオ！」

第４回（後書き）

そのあと。
ドンキー「なぁディディー…。」
ディディー「んあ？何？」
ドンキー「パピーコパピーコパピコパピコパピパピパピーコパピコパピコパピコー！パピコー！！」
ディディー「！？」
ドンキー「…これの意味わかるか？」
ディディー「…わけがわからないよ…。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8862y/

色々雑談部屋

2011年11月29日00時50分発行